草苑保育専門学校 2024 年度 教育課程編成委員会 第 2 回 議事録

日　時：2025 年 3 月 4 日(火)15:00～17:00
場　所：草苑保育専門学校 大会議室
出席者：福元 真由美　　青山学院大学 教育人間科学部 教育学科 教授　　②
　　森田 陽子　　日本女子体育大学体育学部子ども運動学科長/日本幼児体育学会理事　　①
　　森 文稔　　社会福祉法人さきたま会薫る風・上原こども園総括責任/日本子どもと伝承遊び学会理事　　③
　　阿江 美知代　　教育課程編成責任者／草苑保育専門学校校長／草苑学園理事
　　竹原 有基　　草苑保育専門学校 教務部長
　　浅井 忍　　草苑保育専門学校 専任講師／就職支援センター長
※企業等委員種別：①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
欠席者：徳田 多佳子　　草苑保育専門学校講師　　②
司　会：竹原
記　録：浅井

1. 議事と議論の要旨

第一部：報告
（1）資料確認
（2）2024 年度第 1 回議事録確認
（4）校長挨拶
・阿江校長より、来校への謝意と平素のご助言への感謝が述べられた。
・2024 年度は豊島区の子育て広場「IKE・Biz としま産業振興プラザ」やオレンジリボンたすきリレー等の地域連携を継続し、学生や教職員の参加の偏り是正に取り組んだ旨が報告された。
・選択制・少人数のゼミでは学習面以外（運動等）で力を発揮する学生の姿が見られたことが報告された。次年度は全 8 回構成とし、最終回に成果発表を行うことで学びの可視化を図る計画であることが示された。
・引き続き本委員会において忌憚のない意見を賜り、教育課程の改善につなげたい旨の挨拶があった。
（5）報告：2025 年度より新コースを開設、東京都による正式な承認がおりた。
幼稚園教員・保育士養成科を、以下の 2 コースに分ける。

・幼稚園教諭・保育士養成コース　※定員 50 名
・保育士養成コース（本科生、職業訓練生）　※定員 100 名

（6）前回を踏まえての報告

①研究推進について

・再課程認定を見据えて、学内外での活字業績の蓄積を計画的に進める方針を共有

・テーマ設定・投稿先の検討　実践に根差した研究の整理と発表機会の確保（研究紀要）について情報交換

②安全危機管理

・ポータルサイトでの安否確認通知を試行

・デジタル障害時に備えたアナログ代替の可否を検討

・避難訓練と安否確認の組み合わせを含む実施方法を検討

・一斉メールと引き渡し訓練の連動、3 日分の食料・水等の備蓄量と配置の見直しを論点として共有

・イベントに付随させる形や体験要素の付加等。実際の状況に近い設定を重視できるかどうか。

・教職員・学生が実際に体感することの重要性。例として、炊き出し体験の有効性を共有

・備蓄倉庫（食料・簡易トイレ・保温アルミ等）の現状を共有。取り出し手順や担当の明確化の必要性を指摘。現在は校舎から遠い倉庫にあり、大半の教職員が把握できていない。

・宿泊を伴う想定（避難所滞在）を含むシナリオ検討。年内試行に前向きな意見があった。段取りの具体化と想定の精緻化を継続

（7）討議 1. カリキュラムマップ・ツリー

討議①：カリキュラムツリー／マップ

・DP（三本柱：専門性・社会性・人間性）の連続性を図示して学生に示す提案を共有

・図示の候補：螺旋型イメージの言及（学びの反復・深化の説明に有効との意見）。学生向けにわかりやすく、高校・保護者等にも伝わる見せ方の工夫の必要性を共有

・要素の統一ルール　科目群・科目・到達目標・評価観点・実習との接続を同一記号・色で表現し、凡例を設ける

・科目群・到達目標・実習との接続を統一的な凡例で示す方向性を共有

・広報との接続。高校生／保護者向けの見せ方の工夫を検討。

・配置の確認：「保育ゼミⅠ・Ⅱ」、実習（見学・観察・保育 ICT 等）、共通科目（外国語・情報処理・総合教養）をツリー上に明示してわかりやすくする。

・学生の言葉への翻訳・学生と共作した学生向け版の検討

・シラバスのフォーマットに DP 接続項目を入れて意識化する

（8）討議 2. 科目

①外国語コミュニケーション

・英語授業の設計が定まらず、現場ニーズとの乖離がある点を共有
・能力別編成を次年度に試行する方向で検討状況を共有
・ネイティブ講師の強み（発音・運用）と課題（教科書運用が難しい場合）について整理
・最低限必要な場面別表現（あいさつ、案内、安全確認、保護者対応 等）の明確化を検討
・実践活動：ロールプレイ、英語劇（例：メアリーポピンズ、アナと雪の女王)、子ども劇への協働参加などの有効性を共有
・多言語の観点：英語に限定せず、アジア圏言語等への関心・意欲を支える位置づけを検討
・外部リソース：Tokyo Global Gateway 等の活用可能性に言及

②情報処理（ICT）
・レディネス差への対応：ICT スキルの高い学生への拡張課題／初心者への基礎補助の組み合わせを検討
・英語×ICT の連携アイデアを共有（場面別コミュニケーションと作表・記録を接続）
・現場 ICT の理解促進：コドモン、午睡センサー等のツールに関する事例把握（安全管理・記録の観点）
・外部動向：導入補助金の背景があるとの情報共有／ツール・事例のワンストップ共有（共通フォルダ等）の有用性
・実習連動：実習先での事例紹介・振り返りを授業内に取り込む観点を共有
・ドキュメンテーションの扱い：既存科目（例：教育法等）での取り上げ方、写真掲載の同意取得など実務上のハードルを確認

③実習・人権配慮（文科省実施調査関連）
・他校の教職課程実施調査で挙がった話：ハラスメント対策の有無、実習生の報告・相談窓口の設置・運用状況を問う趣旨を共有
・現状と課題：規定はあるが機能面に課題があるとの認識を共有
・教育内容：ハラスメントのケース学習を通じ、窓口・通報ルートの理解を促す必要性
・適用範囲：実習先に限らず、学内外の全てのハラスメントを対象とする認識を共有

2. 次回予定：2025 年 9 月 11 日(木)15:00～17:00
　場所：草苑保育専門学校大会議室

3. 閉会